

古居みずえドキュメンタリー映画を支援する会 通信

2006年7月13日 発行

古居みずえ第1回監督作品『ガーダ ～パレスチナの詩～』公開

5月から劇場公開が始まりました。

東京・名古屋・大阪。また、広島、京都などでも上映されてきています。東京・渋谷 アップリンクXでは8月まで上映期間が延長され、益々たくさんの方々に古居みずえ作品が届いていくことと思います。

2006年7月、ガーダの生活するガザ地区は、イスラエル軍の攻撃の中にあります。発電所が壊され、停電と断水の日々。幹線道路の橋が壊され、政府の建物も壊され、ソニックビームという戦闘機の超音速低空飛行による地鳴りと震動で眠れない夜に、ガザの人びとは耐えています。

『ガーダ』の映画で、私たちは、改めて

パレスチナ・ガザに生きる人々が特別な人びとではないことを実感したと思います。多くの報道において、ステレオタイプに語られる「テロ」「闘争」の代名詞のようなパレスチナの人びとのイメージを払拭し、等身大の人間として彼女たちを身近に感じ、彼女のまわりで起きていく不条理な運命に憤りを感じられたことではないでしょうか。

今後も、古居さんの映像を通して、多くの方々に、パレスチナの人々の暮らしや思いが伝えられていくことを願っています。

今後の活動への更なるご協力をお願い申し上げます。

発起人 土井幸美



～古居みずえさん 公開後を語る～

皆様、お元気ですか？

「ガーダ ～パレスチナの詩～」の劇場公開が始まってからはや2ヶ月がたとうとしています。当初、平日の入りが多く心配されましたが、徐々に人が増え、週末には立ち見も出るほどの日も何度かありました。そして劇場側も当初の予定を延ばして、8月半ばまで上映ということが決まりました。ほぼ3ヶ月に渡るロングランということでひとまず喜んでいいのではと思います。パレスチナ関連の映画では珍しいことだと思います。これもひとえに皆様方の暖かい応援によるものです。残りの1ヶ月も今の調子で乗り切っていきたいと思っています。

私の目的は1人でも多くの方々に観ていただくことです。そのためには全国での上映が欠かせません。6月の終わりから「ガーダ ～パレスチナの詩～」の全国（東京地区を除く）での自主上映が始まりました。皮切りは広島でした。これからが本当のスタートだと思っています。今後さらなるご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。

2006年7月 古居みずえ

自主上映 始まる！

自主上映始まる！

ついに自主上映が始まった。まずは広島からだ。広島で最初の「ガーダ パレスチナの詩」の自主上映が始まること、意義深く感じた。

6月23日には広島大学に行った。広島市から列車で30分ぐらい行ったところにあり、山あり、川ありの自然環境に恵まれた中であつた。大学で学生さんたちと話をした。翌日は同じ町にある公民館で上映会。会場には100人ほどの人たちがつめかけてくれた。この日は女性が多かつた。特に母親の世代が多く、私がパレスチナのたくましい女性たちの話をすると、うなずいて聞いてくれていた。

翌日25日はいよいよ広島原爆資料館での上映会だ。資料館には爆撃の日の悲惨な状況を描いた絵や写真が展示されていた。じっと見ていると目頭が熱くなる。ここでパレスチナの話をするのかと思うと感慨深かつた。朝から大雨だったが、会場には180人ほどの人たちがきてくれた。パレスチナに行くとき、よく広島、長崎の話が出てくる。私が「どうして知っているの？」と聞くと、学校で広島、長崎の原爆のことを教えているという。「その後はどうなっているの？」「広島は立ち直つたの？」とか質問を受けることもある。遠く離れていても苦しい思いをしている人たちは気持ちがつながっている。

26日は京都へ移動。京都市の中でも少し離れた小高いところにある京都精華大学。立看板が並び、学園祭が行われているような活気のある大学だつた。日本で唯一のマンガ学部もあるというユニークな大学だ。熱心に観てくれた学生さんたちの姿に私はいささか緊張した。大阪の劇場ですでに「ガーダ」を観てくれた人も来てくれていた。

28日が今回の自主上映の最終日だ。京都文教大学では大きなホールに学生さんや市民の方が集まってくれた。上映後にはお茶を飲みながら話す会があり、遠くから来てくださった人もいて驚いた。6日間、はじめて自主上映会をひらき、人々に触れることができた。テレビ番組で放映すると、一度に何百万人の人たちが見てくれるが、実際、生の感触を得ることは難しい。こうして上映会をしてまわってみると、一人一人の顔が見え、反応が伝わってくる。これは作品を作るうえで、あるいは作り手として、非常に大切なことではないだろうか。観てくださった人たちの上映後の表情、態度、すべてがビシビシ伝わってきた。

* 『ガーダ パレスチナの詩』 自主上映のご案内 *

自主上映会を企画してみませんか？

支援の会では、自主上映会を企画したいとご希望の方々に、特別貸し出し料金をご準備しました。

是非、みなさまの地域で、お仲間を集めて、自主上映会を開いてください。

お問い合わせ、お申し込みはバイトタイム03-5389-6805（担当：木下、覚田）です。

（お申し込み方法は ガーダの公式HP <http://ghada.jp> の自主上映欄をご覧ください）

貸し出し料金につきましては、支援の会の方々のみ下記の料金となります。

一回上映のレンタル 最低保証金 5万円 + 税金

上映とともに古居みずえの講演を希望される場合も

バイトタイムまでお問い合わせ、お申し込みをお願いいたします。

■ 『ガーダ パレスチナの詩』のこれまでとこれから

古居みずえドキュメンタリー映画支援の会 北林岳彦

皆様の熱いご支持と共感によって、『ガーダ』は予想を超える上映期間を勝ち得、さらに渋谷では8月上旬まで掛かることになりました。ありがとうございます。これからは、映画館での興行の枠を外れて、**全国（東京地区のぞく）**にて皆様による自主上映のご希望にお応えする段に入って参ります。すでに広島では、多くの方が自主上映会に駆けつけてくださっています。

映像に現れるガザ。イスラエル入植地は撤退したのに、地上の監獄と化したガザは、今また危機に直面しています（記事参照）。映像に出てきた人びとはどうしているのか、心配になります。私たちはイラクやパレスチナを「遠い」と思っていました。けれども、私たちの税金が「テロとの戦い」という世界戦略に使われだし、誰が「テロリスト」かも解らない戦争に引き込まれ、じりじりと軍事が市民生活に肉迫してくる状況が現実のものとなってきました。そのような時に、私たちは『ガーダ』の中に、「テロリスト」とか「テロ集団を選挙で選んだ民族」などと名指しされ、人権を踏みにじられる人びとの実際を観ています。彼女ら、彼らは人間です。その生活のありのまま、喜びも悲しみも伝統に根ざす矛盾さえもそのままに、カメラは日本にいる私たちに伝えてくれました。

私たちは、この地球の上で、どのような隣人と理解しあい、共生していくのか、これまで以上に問いかけてられていると思います。東アジアの隣人たちもそうですが、イスラーム社会（パレスチナはイコール・イスラーム社会ではない部分もあるのですが）に生きる普通の人びとの想いや生き方を、『ガーダ』によって知らされた私たちは、紋切り型ではない他者理解への大きな手がかりを与えられたと思います。

そして、この国が憲法の平和条項さえ捨て去るかも知れない瀬戸際で、私たちが忘れてしまったかも知れない、屈辱を忍び理不尽さに怒る人間の姿、新聞記事の行間に潜んでいる人びとの姿が、ここには現れています。いまひとつ忘れてはならないと思うのは、声高に語られる政治的言説の暴力性や圧倒的な物理的暴力によって、『ガーダ』にも描かれる素朴な民衆の生活感情やそれを伝えてきた伝承文化、あるいはアブ・バシームの場合のように農地や果樹が根こそぎ一掃されようとしていることです。これは一つの文化の絶滅に等しいことであり、民族のルーツを断ち切ることです。この映像が伝える現在進行形の危機は、私たちにさまざまな焦燥感を駆り立てることと思います。

今後、この日本の地にあって、戦闘や虐殺、政治家の演説といった映像、解説抜きには理解しにくいオムニバス、歴史的シーンの寄せ集めではない、この『ガーダ』が、中東に関心も知識もない人びとにも広く観るところとなり、他者理解と平和への希求の深層底流を形づくっていくことを期待したいものです。

今、『映画日本国憲法』『リトルバズ』『苦い涙の大地から』『テロリストは誰?』といった映画作品が続々と自主上映されていることは意義深いものがあります。戦場で起きていること、公式発表や検閲済み記事の向こう側を知り、平和と平等を取り戻す行動のよすがとなる作品群に、今、『ガーダ』も加わります。ぜひ、皆様の地域・コミュニティ、あるいは学校や職場でも上映され、多くの方に観ていただきたいと願っております。

古居みずえ ドキュメンタリー映画支援の会 事務局 代表：土井幸美・北林岳彦

連絡先 メール eigaseisakushien@hotmail.co.jp Fax 045-311-3772

事務局では、迅速な情報提供のため、みなさまのメールアドレスの登録をお願いしています。支援の会からのメール配信をご希望の方は、是非、ご自分のメールアドレスを事務局にメールでお知らせください。